

思春期の肥満に対する乳幼児期の体格と生活習慣の関連

母子保健長期縦断研究から

イシハラ 石原	トオル 融*	タケダ 武田	ヤスヒサ 康久*	ミズタニ 水谷	タカシ 隆史*	オカモト 岡本	マサコ まさ子*	サコ 子*	コ 子*
コガミ 小島	ミナコ 美奈子*	タムラ 田村	ウナイ 右内*	ヤマダ 山田	ナナエ 七重*	チェン 成	シュン 順月*	ウエ 月*	コ 子*
ナカムラ 中村	カズヒコ 和彦 ^{2*}	イジマ 飯島	スミオ 純夫 ^{3*}	ヤマガタ 山縣	ゼン 然	タロウ 太郎*			

目的 思春期の肥満は成人肥満に移行することが多く、学童期あるいは、それ以前の肥満の対策が重要とされている。本研究は、縦断研究により思春期の肥満と幼児期の生活習慣、家族関係および体格等との関連を明らかにすることを目的とした。

対象と方法 1987年4月から1991年3月に山梨県塩山市で出生した児を対象として、1歳6か月、3歳児健康診査時の質問票とその時の身長、体重の実測値、また、思春期は2000年4月の健康診断時の身長、体重の実測値を解析に用いた。平成12年度の学校保健統計調査結果の年齢、性、身長別の平均体重を標準体重として、肥満度を算出し、20%以上を肥満と判定した。1歳6か月、3歳時の体格についてはカウプ指数を用い、生活習慣については健康診査時の調査票の生活習慣項目を用いて、思春期の肥満との関連について解析した。

結果 1歳6か月児健康診査時の質問票の回収数は883人で、思春期まで追跡可能であった児が737人であった（追跡率83.5%）。平均追跡期間は10年11か月であった。

1歳6か月時と3歳時のカウプ指数高値群において有意に思春期の肥満者が多くオッズ比はそれぞれ2.61（95%信頼区間：1.11-6.12）と5.34（2.54-11.23）であった。また、母親の肥満群において有意に思春期の肥満者が多く、オッズ比は5.32（2.67-10.60）であった。

生活習慣項目では、1歳6か月時の「室内で一人で遊ぶことの多い」のオッズ比が3.01（1.01-8.99）、また、3歳時の「おやつ時間を決めずにもらっていた」のオッズ比が2.12（1.25-3.61）で思春期の肥満のリスクであった。食品項目では、「牛乳」摂取頻度のみが思春期の肥満と有意な関連を示し、オッズ比0.63（0.41-0.95）であった。

共分散構造解析を行い逐次因果最適モデルを求めた。3歳時の体格、母親の体格、遊び方、おやつ取り方、牛乳摂取は思春期の体格に影響を与えていた。また、母親の体格は子どもの要求の応じ方に影響しており、子どもの要求の応じ方はおやつ取り方に影響を与えていた。

結論 思春期の肥満は、1歳6か月と3歳時の体格、母親の体格、幼児期の遊び方、おやつ取り方、牛乳摂取と関連があった。遺伝要因が強いことが確認されたが、幼児期の生活習慣も思春期の肥満と関連していることが示唆された。

Key words : 思春期肥満, 共分散構造解析, 生活習慣, 縦断研究, 幼児健康診査, 牛乳

* 山梨大学医学部医学科保健学Ⅱ講座

^{2*} 山梨大学教育人間科学部

^{3*} 山梨大学医学部看護学科地域・老人看護学講座
連絡先：〒409-3898 山梨県中巨摩郡玉穂町下河
東1111 山梨大学医学部医学科保健学Ⅱ講座
山縣然太郎